

ホッキョクグマと 三角コーン

芦沢 美樹 / 作・絵



第 21 回 日本動物児童文学賞奨励賞受賞作

人が動物を愛する。
動物が人を愛する。

—あなたも動物園に行ってみたくくなります。

「ホツキヨクグマと三角コーン」

もくじ

第一章	遠い国へ
第二章	新しい出会い
第三章	人気者
第四章	ピートの一日
第五章	とつぜんのできごと
第六章	遠い空のかなたに

第一章 遠い国へ

その時ピートはひこうきに乗っていました。せまくて暗い箱の中で、何時間も何時間もすごしていました。せまくて暗いだけではなく、そこはとても暑苦しい場所でした。それにときどき大きくゆれたり、ものすごく大きな音が聞こえてきたりして、ピートにとっては決していごこちのいい場所ではありませんでした。

それだけではなく、箱の中ではきのうまでいっしょにいたおかあさんやふたごのおにいさんのすがたがどこにも見えませんでした。ピートは、見えな
いのが暗いせいだと思ったかったにちがいありません。暗い箱の中でピート
はときどきねむりました。ねむっている間、いろいろな夢ゆめを見ました。おか
あさんにプールのとびこみを教えてもらっている夢ゆめ、ふたごのおにいさんと
いっしょにかくれんぼをしている夢など、他にもいろいろ見ましたが、どれ
も楽しい夢ばかりでした。その中でも、おかあさんのおちちからミルクを飲

んでいる夢が多かったのは、いどう中のひこうきの中で、ときどきロシアの飼育員しいくいんさんがあたえてくれる水を飲んでいたピートが、半分寝ねぼけていたせいだったのでしょう。

それから一体どれだけの時間がたったのでしょうか。とつぜんガタガタと石が転がるような音が鳴りひびき、先ほどもまして箱がゆれ始めました。それからしばらくして、暗くてせまい箱の下の方から、一本の光がさしこみました。そしてその光がだんだん上の方に向かって大きくなっていきました。箱のとびらが開いたのです。遠くの方が暗いのは同じでしたが、右上の方からライトのあかりがさしていて、ピートはようやく目の前のものを見ることができました。

おかあさんやおにいさんが見えないのは暗いせいだと思っていたピートは、

ライトのあかりを手助けに 一生懸命みんなをさがしました。何度も何度もあたりを見回しました。でも、みんなはどこにもいませんでした。ただそんな中、「ピート！」と大きな声で自分をよんでいるのが聞こえました。聞きなれた声でした。ピートといっしょにひこうきに乘ってきたロシアの飼育員さんでした。ピートは少し不安がうすらいだので、ゆっくりと飼育員さんの方に向かって歩いて行きました。この時ピートはまだ気づいてはいなかったのですが、先ほどからピートのことを心配そうにじっと見つめている人がいました。ピートがまだ出会ったことのない人でした。この人が池田平動物園のホッキョクグマ係の幸川さんでした。



第二章

新しい出会い

ホッキョクグマは地球上でもっとも大きい肉食動物にくしよくどうぶつです。オスのホッキョクグマは体長二〜二・五メートル、体重四百〜六百キロにもなります。メスは一回り小さく、体長一・八〜二メートル、体重二百〜三百五十キロぐらいです。かれらは主に北極点を中心とした北極海の氷の上に住んでいて、アザラシや魚の他、イチゴなどのくだもの、また海そうなどを食べて生きています。泳ぎが得意とくいで、何時間も氷の間を泳ぐことができます。おかあさんグマは冬の間、雪をほって作った巣穴すあなにこもって赤ちゃんを産うみます。子どもは二年間おかあさんグマといっしょにくらした後、ひとり立ちしていきます。今、地球の温度が上がっているせいで、じゅう分な食べ物をとることができずに死んでしまうホッキョクグマがふえています。

ピートはオスのホッキョクグマです。ロシアの動物園でくらしている両親やうからふたごのおとうととして生まれ、約半年間、ロシアでおかあさんとふた

ごのおにいさんといっしょにくらしました。おとうさんはホッキョクグマの性質上子育てをすることができないため、ピートたちが生まれてからは別のおりにうつされました。その後はるばるロシアから日本にやって来たピートは、まだ生後七ヶ月でした。ロシアから日本へはひこうきでの長旅となるため、出発前にいどう中のピートの体調が心配されました。日本の静岡県静岡市にある池田平動物園に着いた直後はさすがに落ち着かない様子でしたが、すぐに活発に動き回り、つかれを感じさせないくらいの元気なすがたに戻りました。

静岡県は日本のほぼまん中にあり、太平洋に面しています。あたたかな気候を利用して、お茶やみかんのさいばいがさかんに行われています。池田平動物園は、静岡市の中心部から約五キロはなれた駿河湾に面した小高い山のふもとにあります。まわりが緑でかこまれた自然ゆたかな動物園で、

約百八十種類やくしゅるい七百ぴきもの動物たちがくらしています。静岡市しずおかしがうんえいしています。

ロシアのペテルブルク動物園から日本の池田平動物園いけだひらにホッキョクグマの赤ちゃんがおくられることが決まったのは、生まれたばかりのピートにとっては大事件だいじけんでした。今まで長い間池田平動物園いけだひらでくらしてきたホッキョクグマのビッキーが、きよ年の夏、老ろうすいのために死んでしまいました。日本国内のホッキョクグマとしてはもつとも長生きし、三十五才まで生きました。人間にたとえると百才ぐらいになります。そういう理由もあつて、池田平動物園いけだひらではビッキーにかわる新しいホッキョクグマをさがしていました。そんなところに、幸運にもペテルブルク動物園からホッキョクグマの赤ちゃんを池田平動物園いけだひらにくれるというれんらくがあつたのです。ホッキョクグマをさがしもとめる池田平動物園いけだひらの職員しよくいんの熱意ねついと、国内でもつとも長生きしたホッ

キョクグマを育てたことがみとめられたのでした。

ピートが夜おそくに日本に着いてからひとばんがすぎました。朝になってあたりが明るくなり、ピートが目をさました時にはまわりのものがよく見えしました。でも、今まで見たことのない景色^{けしき}、人、感じたことのない空気、その他のいろいろなものが今までとは全くちがっていました。冬は0度以下の気温になるととても寒い土地から、ほとんど雪のふることのないあたかな気候^{きこう}の土地にきたことだけでも、ピートにとってはとても大きな変化^{へんか}でした。それに「今までではあったけれど、ここにはない。」というものもたくさんありました。あまえたい時にいつでもそばにいたおかあさん、いっしょに楽しく遊んだおにいさん、きのうまでいたロシアの飼育員さん^{しいくいん}、みんないつぺんにどこかに消えてしまいました。そして代わりに目の前に新しくあらわれたのが池田平動物園^{いけだひらどうぶつえん}のクマ舎^{しや}、そして飼育員^{しいくいん}の幸川^{さちかわ}さんでした。

幸川^{さちかわ}さんは長年^{いけだいら}池田平動物園^{はたら}で働いてきた飼育員^{しいくいん}です。ホツキョクグマの係^{だいす}でした。なぜこの仕事についたのかと言うと、子ども^{さちかわ}のころから動物が大好き^{だいす}だったからでした。幸川^{さちかわ}さんにとっては、動物を飼育^{しいく}することは仕事というよりも子育てと同じでした。世話する動物のことを家族と同じように考えていました。家に帰っても動物のことが気がかりでねむれないこともしょっちゅうでした。そんな幸川^{さちかわ}さんを見て、幸川^{さちかわ}さんの家族は不満^{ふまん}を言うどころか、いっしょになって動物の心配をしました。

小さいころから動物ばかりに夢中^{むちゆう}になってきた幸川^{さちかわ}さんでしたが、それ以外^{いがい}にも大好き^{だいす}なしゅみがありました。それは星座^{せいざ}観察^{かんさつ}でした。中学生の時、一度だけ理科のテストで百点を取って、ごほうびに両親^{てんたいぼうえんきよう}が天体望遠鏡^{てんたいぼうえんきよう}を買ってくれました。その天体望遠鏡^{てんたいぼうえんきよう}で晴れた日の夜に星を観察^{かんさつ}したのがきっかけ



でした。広い夜の大空に、ほうせき宝石のようにいろいろな星がかがやき、それが季節きせつや時間によってさまざまにへんか変化していくのを見てみると、とてもしんびてきな気持ちになりました。またゆたかな自然しぜんを感じることもできました。大人になってからは、いそがしくてなかなか天体望遠鏡てんたいぼうえんきょうで星を観察かんさつすることはできませんが、晴れた日の仕事帰りに、歩きながら夜空をながめることはこの上ない楽しみでした。

星座せいざにはいろいろあります。季節きせつによって見える星座せいざもかわります。でもおおぐま座ざ・こぐま座ざは北の空でほぼ一年中見ることができます。とくに北極星ほっきょくせいのあるこぐま座ざは、北の空の中央で回転くわんてんしていて、地平線の下にしまむむことがありません。北の空高くを見上げると、明るい七つの星がひしゃく型がたにならんでいるのが目立ちます。これが北斗七星ほくとしちせいです。北斗七星はおおぐま座ざのしっぽの部分にあたります。北極星ほっきょくせいを見つける目じるしにもなります。

北極星はこぐま座のしっぽの先にあります。北極星は一年中北の空に止まっていたまま動かないので、大昔から北半球をふねで旅する人びとの役に立っていました。北極星はまるで「早く大きくなつて北斗七星にならないかな。」と言いながらおおぐま座のしっぽをいつもながめているような感じです。幸川さんはおおぐま座とこぐま座を見ては、ピートとピートのおかあさんのすがたを重ね合わせました。

はじめて会った時から、ピートのことを本当の子どものように世話してくれる幸川さんに対して、ピートはあつという間になつきました。そしてそれからというもの、あまえん坊のピートが幸川さんのすがたをさがし回る毎日が始まりました。プールで遊んでいる時も、寝部屋でうとうとしている時も、そして大好きな食事中でさえ、幸川さんのすがたを見つけるとすぐに近くにかけよりました。決まった時間になると、ピートはかならず寝部屋にある通

路がわの鉄のさくに体をはりつかせました。幸川^{さちかわ}さんが寝部屋^{ねべや}の前をかならず通る時間だからでした。この点ではピートは時計より時間にたしかでした。そして、幸川^{さちかわ}さんのすがたが見えると、大よろこびで立ち上がったたり後ろ向きになって鉄のさくに全身をなでつけたりしました。幸川^{さちかわ}さんもそんなピートを見ているといつまでもいっしょにいたい気持ちになりました。



第三章

人氣者

池田平動物園に来てからピートはあつと言う間に人気者になりました。
いけだいら

七月九日にピートは静岡県静岡市にある池田平動物園にやって来ました。
しずおかけんしずおかし いけだいら

もうすぐ梅雨つゆが明け、これから暑い暑い夏がやって来ると言う季節きせつでした。

そしてその約やく一ヶ月後にはピートの公開が始まりました。はじめは公開時期を秋に予定していましたが、ピートの体調が思ったよりよかったので公開を早めました。公開初日しよにちはうだるような暑さにもかかわらず、ピートをひと目見ようとクマ舎しゃのまわりにはお客さんがたくさん集まりました。ピートがすがたをあらわすと「かわいい！」とかん声が上がりました。はじめピートは人の多さにおっかなびっこりしていましたが、魚が入った氷がプールに投げ入れられるといきおいよくとびこんだりして、とても元気なすがたを見せてくれました。コロコロとしたぬいぐるみのようなホツキョクグマの子どもが元気に遊ぶすがたは、またたく間にお客さんの心をうばいました。



ピートはプールで遊ぶのが大好きだいすでした。動物園はピートのために、いろいろなおもちゃを用意しました。ガス管かんとして土の中深くにうめて使うポリエチレン製の黄色せいいっつ、漁業ぎょぎょうの人がブイとして使うオレンジのボール、道路工事や交通整理などで使う三角コーン、灯油とうゆなどを入れるポリタンク、その他にもいくつかありました。これらのおもちゃに共通きょうつうしていることは、プールにプカプカうくこと、じょうぶなこと、手に入りやすいこと、そして一番大事なのは安全なことでした。

とりわけピートが好きなものは、まっかな色の三角コーンでした。だれでも一度は見たことがあるでしょう。ガスや水道などの工事をする時に道路にあなを開けますが、その時まちがって車や人が入らないようにさくでかこつたりします。そんな時にならずお目にかかるものです。ちゅう車場やお祭り広場でも見かけることがあります。形は三角すい、というよりもクリスマスマ



ス用のぼうしと言った方がわかりやすいでしょう。高さは七十センチくらいで、じょうぶなプラスチックできています。色は赤が多いのですが、何色か他の色もあり、中にはしまもようになっているものもあります。

じっさいピートは三角コーンをぼうしのようにかぶるのが好き^すでした。ぼうしのようにかぶると言っても、かぶると首まですっぽり入ってしまい、これでは前が見えなくなるのですが、目の前がとつぜんまっかになることがおもしろくてたまらなかったのかもしれない。かぶったまま歩いたりプールにとびこんだりするので、お客さんや飼育員^{しいくいん}さんをハラハラさせました。ピートが成長^{せいちよう}してみるみるたくましくなっていくにつれ、この三角コーンの命もちぢまっていきました。三角コーンは、ピートによってくわえられたり、投げられたり、かぶられたり、そして足でふみつぶされたりして、さいごにはペシヤンコになってしまふことがほとんどでした。でもふしぎなことに、ピー



トはペンションになった三角コーンでも、大事そうにくわえて寝部屋ねべやに持って帰り、だきながらねむることが多かったのです。

ピートが一番得意とくいとする遊びは、なんといってもプールへのとびこみです。ピートにしてみれば、とびこみが目的もくてきと言うよりも、プールにプカプカういているおもちゃが目当てのようです。そのおもちゃ目がけて思い切りジャンプしてプールにとびこみます。毎日何度もとびこみをしているので、日ましにジャンプがじょうずになり、きよりと高さがだんだんのびていきました。三メートルぐらいはなれたところからジャンプすることもありましたが、たまに足の先が陸地りくちに当たってまわりのみんなをヒヤヒヤさせました。

また、ピートはおもちゃの遊び方をいろいろ考え出すことも得意とくいでした。おもちゃを思いきり投げてそれを追いかけたり、あお向けになって手足のう

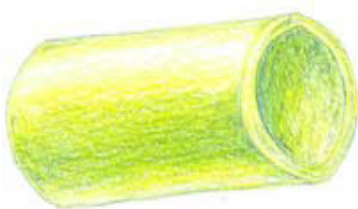


らでじょうずに転がしてみたり、くわえて左右にブンブンふり回してからブーメランのように投げたり、と数え出したらきりがありません。また、一つのおもちゃだけで遊ぶのではなく、黄色いつつを頭にかぶったままボールをくわえたり、おもちゃ同士を組み合わせてみたり、実にいろいろな遊び方を考え出しました。おもちゃの他にも、いつも得意とくいとしているとびこみ、せん水、水中ターン、の動きをかえて新しいわざを作るなど、本当に遊び上手でした。次から次へといろいろな遊びを見せてくれるので、お客さんも大よろこびでした。ピートはお客さんがよろこぶのを知ってか知らずか、いつもまわりをわかせていました。

ピートは昼の間はずっと元気に遊びました。日中寝部屋ねべやに入って長い間いねむりをするということはありませんでした。ときどきお気に入りお気に入りの場所にこしをおろして一休みをしますが、ほとんど運動場で遊びつづけました。運



動場にはピートの大好きなプールがあるからというのは言うまでもありませんが、ピートはまるで外にいる人の気配けはいをよろこんでいるかのようでした。



第四章

ピートの一日

ピートの一日は大体こんなふうにして始まりました。

夜明け前、空がうつすら明るくなりかけるころにピートは目をさまします。前の日は夕方から寝^ねてしまうことがほとんどなので、すいみん時間はじゅう分です。明け方だというのにねむくはありません。寝部屋^{ねべや}でゆつくりのびをした後、プールのある運動場に出ます。そしてプールべりにあるお気に入り場所^{ところ}にこしをおろして一休みをした後、早速プール遊びを始めます。

外の運動場は長方形になっ^{りくち}ていて、プールと陸地^{りくち}に分かれています。コンクリートでできた陸地^{りくち}の部分はペンキで白くぬられていて、まるで北極^{ほっきょく}の氷を思わせます。このプールと陸地^{りくち}の部分が、お客さんから見ると、インド洋を手前にしたインド半島^{インドはんとう}のようです。ピートはこのインド半島の一番南にあたる三角の出っぱりの部分にはらばいになっ^{りくち}てすわり、手のひらを半分たら



して一休みするのが大好きだいすでした。

早朝、太陽が地上に上がるころには、ピートはもうプール遊びに夢中むちゆうになっています。いつものようにとびこみやターン、それにおもちゃを追いかけたりと、早朝だということにとても元気に遊びます。

午前七時四十分、この時間になると、ピートは今までプールで夢中むちゆうになつて遊んでいたにもかかわらず、急に何かを思い出したように大急ぎで寝部屋ねべやにかけつけます。この時間は幸川さちかわさんが出勤しゅっきんしてくる時間です。ピートはこの時間を前の夜からずっと心待ちにしていたにちがいありません。

午前七時四十五分、幸川さちかわさんはクマ舎しやに来るなりピートの寝部屋ねべやのそうじにとりかかります。でも寝部屋ねべやをそうじするためには、まずピートを運動場

の方に追いやり、寝部屋ねべやとのさかいにある二つの重いとびらをしめなくてはなくてはなりません。いくらピートに人間をおそうつもりがなくても、体重が百キロ近いクマにふれることはとてもきけんなことでした。ピートはふざけているつもりでも人間にけがをさせてしまう場合もあります。ピートに近づく時にはじゅう分注意をしました。寝部屋ねべやと運動場のそうじの時や、ピートのえさを用意する時には、かならず重いとびらをしめてピートを遠くに追いやりました。これは他の動物を世話する飼育員しいくいんさんにも共通きょうつうする大事な決まりごとでした。

このピートを遠くに追いやる方法ほうほうですが、できるだけうまく行われるようにクマ舎しゃのつくりがくふうされていました。運動場と寝部屋ねべやの間、また、運動場と飼育員通路しいくいんの間、さらに飼育員通路と寝部屋ねべやの間に特別とくべつなとびらが取りつけられていました。どのとびらもはなれたところから飼育員しいくいんが開けしめ

できるようなしかけがありました。電動式でんどうしきにすればもっと楽なように思いますが、相手は動物です。機械きかいにたよるときけんがましてしまします。手動式しゅどうしきであれば、まちがって動物をはさんだりしてしまうことが少なくなります。また、すべてのとびらは、どんなに力のある動物でもこわしてしまわないように、重くてあつい鉄でできていました。下にレールがなければ、とても一人の人間の力では持ち上げることのできない特別とくべつなとびらでした。

ところが、幸川さんさちかわはピートを遠くに追いやるのにいつも苦勞くろうしていました。理由はピートがなかなか幸川さんさちかわのそばをはなれないからでした。幸川さんが近くにいと、ピートは大よろこびをして、立ち上がって鉄のさくに体をこすりつけてきたり、幸川さんさちかわの行く先ざきについてきました。幸川さんさちかわも本当はうれしいのですが、これではなかなか仕事がかどりません。幸川さんさちかわにとってはいれしい苦勞くろうでした。



ピートを運動場に追いやった後、きのうピートが食べのこした野菜やさいなどを、ちりとりとクワを使って手早くかたづけれます。その後ホースを使って水でいいねいに寝部屋ねべやをあらう流します。この時、運動場に追いやられたピートは何をしているのかというと、しめられてしまったとびらをドンドンたたいたり、とびらに向かって立ち上がったたりして、開けてくれない不満ふまんをうったえます。何度うったえても開けてくれないのがわかると、あきらめてコンクリートの上で一休みをしたり、プール遊びを始めます。でも、早朝一人で遊んでいる時よりも、気分はウキウキしていたことでしょう。すぐ近くに幸川さちかわさんがいることがわかつているからです。

午前八時、寝部屋ねべやのそうじがおわると、今度は寝部屋ねべやにピートの朝ごはんを用意します。朝はあつさりしたのだけです。キャベツ一つ、にんじん一本、りんご三つと言った感じでした。運動場に追いやられていたピートを今度は



寝部屋^{ねべや}へと追いやります。そして、もう一度さかいにある二つのとびらをします。寝部屋^{ねべや}でピートが朝食を食べている間に運動場のそうじをするためです。

午前八時半、幸川^{さちかわ}さんの朝のクマ舎^{しゃ}での仕事時間は、ピートにとっては大よろこびのひと時です。幸川^{さちかわ}さんの顔を近くで見たり、時には鉄のさくの間から鼻やせなかをさわってもらったり、「ピート！」と声をかけたりしてもらえるからです。幸川^{さちかわ}さんに近づくことができる楽しい時間です。幸川^{さちかわ}さんも仕事とはいえ、本音^{ほんね}を言えばこの時間がとても好き^すでした。ピートとまじかにふれ合うことのできる大切な時間でした。

午前九時、いよいよ動物園の開園時間です。開園五分もしないうちにお客さんのすがたがまばらに見えてきます。池田^{いけだ}平動物園^{たいら}では、まよわずに動物

を見るためのじゅんろを作っており、それを地図にしてお客さんにわたして
いました。ピートのいる場所は、なぜかそのじゅんろのさいごの方になって
いるのですが、ピートが来てからは、そのじゅんろにかまわず、いきなりじゅ
んろのさいごのピートをさいしょに見に来るお客さんがふえました。お客さ
んの中には、ホッキョクグマの子どものうわさを聞きつけ、ピート目当てに
池田平動物園いけだだいらに来る人も多いようでした。中には大きなレンズのついたカメ
ラを持って来て、何まいも何まいもピートの写真を撮とりつづける人や、一日
中ピートの場所にはりこんで観察する人もいました。かんさつ朝から元気に遊びつづ
けるピートをながめていると、時間などあつという間にたつてしまったので
しょう。

朝からずっと元気よく遊びつづけているピートですが、遊びの合間、あいまとき
どきあのお気に入りお気に入りの場所にこしをおろして一休みをしました。ここはピー

トからもお客さんからもおたがいが一番近く見える場所でした。ピートはプールのへりに手のひらを半分たらしすわり、顔を持ち上げ、首をゆっくり左右にふりながらお客さんを下からながめたりしました。そのすがたがなんともゆったりしていて、見ている人をなごませました。この時のピートの表情は、いつもおだやかで満足まんぞくそうでした。

運動場で遊んでいる時、ときどきピートは立ち上がってお客さんの方をキョロキョロながめ回したり、かべに開けられたはい水口はいすいこうをのぞこうとしたり、まるで何かを一生懸命いっしょうけんめいさがしているようなそぶりを見せることがありました。ここでも、ピートがさがしていたのは幸川さんさちかわでした。一日に数回、幸川さんは運動場の上の方から見ているお客さんにまざってピートの様子を観察かんさつします。もちろん幸川さんさちかわにとっては大事な仕事の一部です。おどろいたことに、ピートはお客さんにまざった幸川さんさちかわをいつもすぐに見つけるこ



とができました。ホツキョクグマは視力しりよくがいいと言われていますが、はたして視力しりよくがいでだけで、あれだけ早く幸川さんを見つけることができたのでしょうか。ピートだけが感じ取れる幸川さんさちかわの気配けはいというものがあつたのかもしれない。

午後一時、この時間になると、ピートは少しソワソワし、しきりに寢部屋ねべやの方を気にし始めます。遊びすぎてそろそろおなかさちかわがすいてくる時間です。幸川さんがピートの昼ごはんを用意するために寢部屋ねべやの方にやって来る時間だというのがわかるのでしよう。

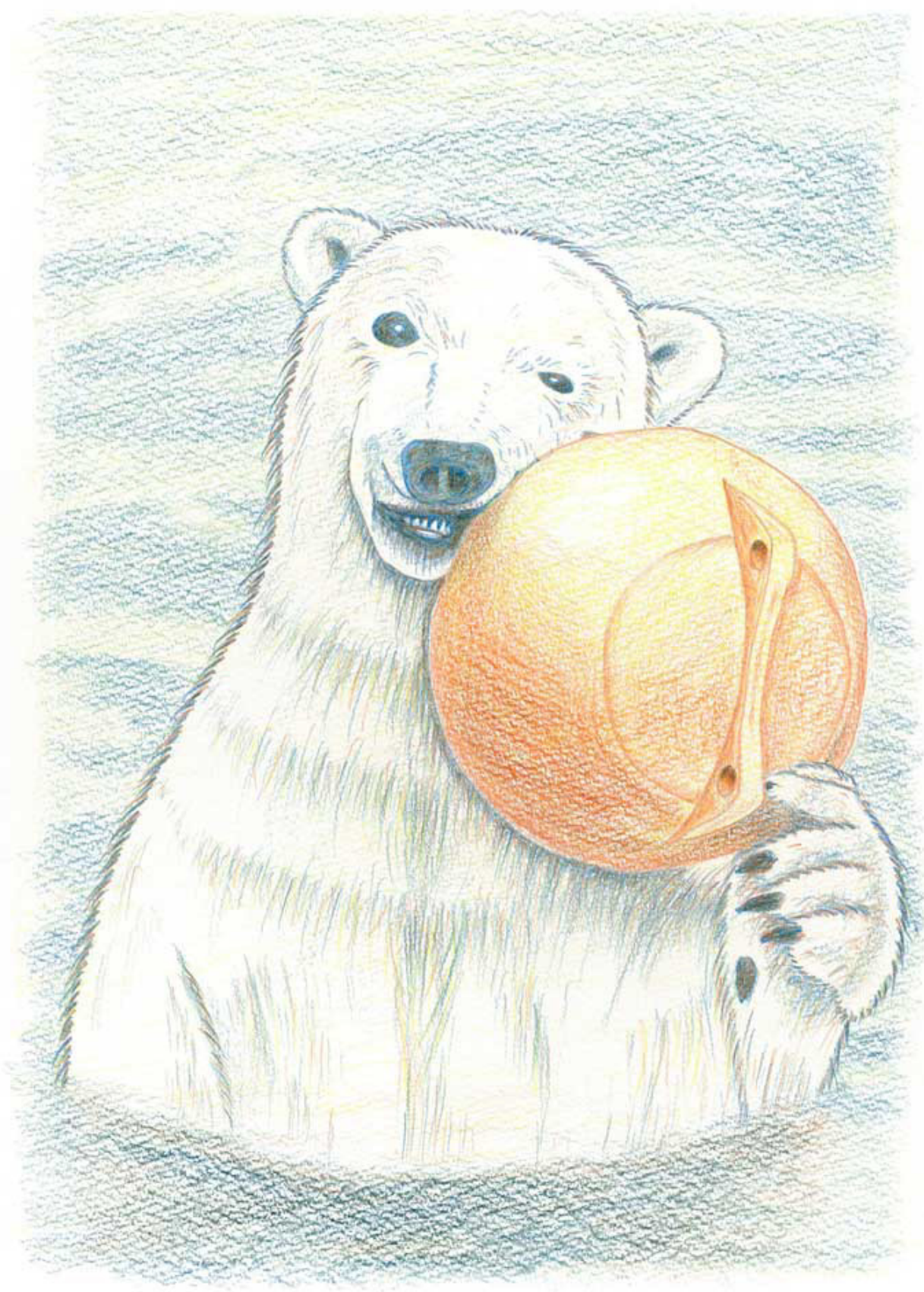
午後一時半、ちよつとおそいのですが、ピートの昼ごはんの時間です。朝から活発に動き回っているのでおなかさちかわはペコペコです。ピートは一日二食なので、昼ごはんはたっぷりあたえます。えいようにも気をつけなければなり

ません。食事は、魚（さばなどの青い魚）、肉（牛肉や馬肉やとり肉など）、ゆでたさつまいも、にんじん、りんご、とりの頭（カルシウムを取るため）、そしてキャベツやなっ葉などでした。一番好きな物はなんと言っても魚です。ピートは好きなものから順番に食べていく習慣がありますが、なぜかいつもさいごになるのは青野菜でした。人間にもこういう習慣の人がいますね。でも、どれもみなとてもおいしそうにたいらげます。

午後二時、昼ごはんをたっぷり食べ終え、おなかがいっぱいになっている時間です。ふつうだったらこのあたりでお昼寝といきたいところですが、ピートはちがいました。食事をしてさらに元気いっぱい、と言った感じでまたプールで遊び始めます。一日中遊んでばかりいてつかれやしないかと心配になるくらいよく遊びます。

午後四時二十五分、もうすぐ動物園の閉園時間へいえんです。園内に閉園へいえんのお知らせと音楽が流れ始めます。ピートはもうすぐみんながいなくなってしまうのがわかるのでしょうか。なごりおしそうにプールのはしを行ったり来たりして泳いだり、陸地りくちに上がって首をのばしたり立ち上がったたりしてお客さんの方をながめます。

午後四時半、この時間になると決まって、また何かを思い出したように大急ぎで寢部屋ねべやにかけつけます。幸川さんさちかわがクマ舎しやをかたづけけるために、寢部屋ねべやの前を通る時間だからです。ほとんどは幸川さんよりピートの方が早く寢部屋ねべやに着いてしまします。キョロキョロしながら通路を見つめ、そして幸川さんさちかわが近くに来ると、朝と同じように立ち上がったたり、鉄のさくにせなかをこすりつけたりします。大よろこびなのでしょう。幸川さんさちかわもやさしい表情ひょうじょうでしばらくピートを見つめます。「今日はこれでおわかれだね、早く寢ね



ろよ。」と言わんばかりです。

午後五時、もうすぐ動物園の職員しよくいんの仕事が終わる時間です。ピートはこの時間から明日の朝まで一人ですごさなければなりません。ピートは夜がきらいでした。さびしくなるからでした。さびしくなる前にさっさと寝ねてしまうのがピートの習慣しゅうかんになっていました。ねむって楽しい夢ゆめを見ればさびしくな
いし、朝起きてしばらくすれば、また幸川さちかわさんが出勤しゅっきんして来るからです。だからこの時間になると早ねばや寝るじゅんびをしました。寝部屋ねべやに大好きなまっかな三角コーンを持ちこんで、だいたまま寝ねることもありました。まくらにしたり、おなかの下においたりすることもありました。だきかかえることができたのでがほとんどでした。だきかかえると安心してすぐにねむることができたのでしょうか。でも、これもピートが夜中に何回か寝返りねがえを打っているうちに、手もとからはなれてしまい、朝になるとんでもないところにあったりしま

した。

ピートはねむる時はほとんど、体を横にして両手両足をそろえます。このすがたがなんとも言えずかわいく、体全体が白くて丸いので、上から見るとまるで大きなギョウザのようでした。せなかがふつくら丸みをおびていて、そろえた両手両足がギョウザのひだのように見えました。ピートはきつとねむっている間はいつも楽しい夢ゆめを見ていたのでしょう。その寝顔ねがおはいつもおだやかでした。

そして夜がふけ、ひとばんがすぎ、やがて空が白くなりかけるころ、ピートは日がのぼる前だというのに早ばや起きて運動場に出ます。幸川さちかわさんが来るのが待ち遠しくて早起きになったのかもしれませんが。それに、運動場は出勤しゅっきんしてくる幸川さちかわさんを一番早く見ることができる場所でした。

毎日がこんな感じにすぎていききましたが、ピートの生活には週に一回の
変化へんかがありました。それは毎週木曜日か金曜日に行われる、ピートのプール
そうじの日でした。プールの水を全部ぬいて、ていねいにそうじをしなければ
ならないので、一日がかりで行われました。プールそうじの間、ピートは
別のプールにうつりました。ホッキョクグマの習性上しゅうせいじょう いっぺいじかん、一定時間水に入ら
ないとあばれてしまうことがあるためでした。別のプールは、第二プールと
言われ、新しくてこじんまりしたプールでした。寝部屋ねべやのとなりであり、
寝部屋ねべやにある入口のとびらがこの日だけは開かれ、ピートは自分で歩いてう
つりました。第二プールのとなりには第二寝部屋ねべやまでありました。プールそ
うじの日は朝から次の日の朝までこの第二施設しせつですごします。第二施設へう
つる日は、好奇心こうきしんの強いピートにとってはお楽しみの日でもありました。よ
ろこんで自分から第二施設しせつへうつり、幸川さちかわさんの手をわずらわせることはあ
りませんでした。



第五章

とつぜんのできごと

そんな毎日が足早にすぎていきました。ピートは病気らしい病気も一度もせず、いつも元気に動き回り、よく食べ、よく寝ました。おかげでスクスク成長していきました。半年もすると、ピートの体重は約三倍にふえ、せたくも倍近くのびました。体の成長とともに力もついてきました。おもちゃとして用意したプラスチック製のドラムかんを軽がると持ち上げ、さらに、その中に水を入れてくわえて運んだりすることもできるようになりました。重さにして百キロ近くあるものでした。大変な力でした。でもあいかわらずおもちゃ遊びが大好きなところはまだまだ子どもでした。

ピートの大好きな冬がすぎ、ようやく寒さがほころび始めたある日のことでした。いつものように出勤した幸川さんは、大よろこびをする。ピートを運動場に追いやり、運動場と寝部屋のさかいにある二つのとびらをすばやくしめ、寝部屋のそうじを始めました。寝部屋にはピートがきのう食べのこした、



キャベツとなつ葉が少しちらばっていました。ピートは魚や肉、さつまいも、にんじん、りんごなどは大好きなのですが、青野菜はどうでもいいように、この光景はよくあることでした。幸川さんが「しょうがないなあ。野菜もちやと食べなくちゃだめじゃないか。」とやさしくつぶやきながら、ちりとりとクワでそれをかき集めていたところ、とつぜんどこからともなく地鳴りのような音が聞こえてきました。とてもぶきみな音でした。

「おや？」と思つたしゅんかん、立っていられないほど地面がゆれ始めました。ゴーつという音とともにそのゆれは一分ぐらいつづきました。今までがいけんしたことのないくらい大きな地震でした。幸川さんはとつさにピートのことを心配しました。運動場にいるピートを見に行くために、急いで寢部屋から出ようと思いました。ところがそのしゅんかん、寢部屋とつなぎ部屋のさかいにある重い鉄のとびらが、音を立てて幸川さんに向かつてたおれ

てきたのです。とびらのささえになっていたコンクリートのかべの一部が、地震じしんによってひびわれしたせいでした。幸川さちかわさんはすばやくにげようとしたが、間に合いませんでした。ものすごい重さの鉄のとびらが幸川さちかわさんの右足に落ちてきました。

しばらくの間、幸川さちかわさんは気をうしなっていました。気をうしなっている間、幸川さちかわさんは夢ゆめを見ました。北の夜空に、ピートとピートのおかあさんがなかなかならんですわっていて、わらいながら自分に手をふっている夢ゆめでした。ピートもピートのおかあさんもすぐうれしそうでした。そのまわりにはたくさんの小さな星がかがやき、とてもきれいな夜空でした。

それからどれだけの時間がたったのかわかりませんでした。気がつくとき、そこがピートの寝部屋ねべやであること、そして自分は寝部屋ねべやのそうじ中だったこ

とを思い出しました。まだ目がかすんでいてよくわからなかったのですが、目の前に日本の国旗こっさきのような赤白の色の物が見えました。その赤白の色の物が何なのかははつきりわかりませんでした。きつとまた、白いピートがまっかな三角コーンをだきかかえて寝ねているのだと思いました。「でもどうやって入ってきたのだろう。」と考えているうちに、だんだん目の前の物がはつきり見えてきて、それが何なのかわかりました。ところが、またたく間にまた見えなくなってしまうしました。それは幸川さちかわさんの目から大つぶのなみだがあふれ出てしまったからでした。

地震じしんのせいで運動場とつなぎ部屋の間のとびらにはわずかなすき間が開いていました。ピートはそのすき間に手を入れてとびらをこじ開けたあと、幸川さちかわさんがいる寝部屋ねべやまで入ってきたのでした。たおれている幸川さちかわさんを見て、ピートは幸川さちかわさんの足をはさんでいた重い鉄のとびらを、出せるかぎり



の力を出して自分の手で持ち上げました。そしてそのまま幸川さんさちかわの足を口でくわえて安全な場所にずらしたのです。その後ピートはしばらくそのままとびらを持ち上げつつけていましたが、だんだん鉄の重さにたえ切れなくなりしました。少し手の力をゆるめたしゅんかんでした。重い鉄のとびらがピートを目がけてたおれてきたのです。

幸川さんさちかわが、かすんだ目でまっかな三角コーンと見まちがえたのは、ピートの口からはき出されたおびただしい量りょうの血でした。重い鉄のとびらがたおれたせいでピートのむねの骨がおれ、それが運悪く内ぞうにささって大量たいりょうの血をはいたのです。ピートは横たわったまま、ピクリとも動きませんでした。

幸川さんさちかわは動けないままでしたが、それよりも悲しみに息が止まりそうでした。しばらくして、他の職員しよくいんがたおれている幸川さんさちかわに気づき、懸命けんめいな

きゆうしゅつかつどう

救出活動のあと病院に運ばれて行きました。幸川さんさちかわは運ばれている間、

自分のことよりもピートのことで頭がいっぱいでした。

しずおかし

静岡市はこれまでにないほどの大地震おおじしんに見まわれ、大きなひがいを受けま

した。何年も前からおそれられていた東海大地震とうかいだいじしんがとうとう本州の東海地方

をおそったのでした。二月二十六日午前七時五十六分、駿河湾沖するがわんおきの海底でマ

グニチュード八・五の地震じしんが発生したとの発表でした。この大地震おおじしんは静岡県しずおかけん

だけではなく、中部地方を中心とした本州を広くゆらし、各地かくちに大きなひが

いをもたらしました。静岡市内しずおかしなでは多くの建物がくずれ、道路はあちこちで

ゆがみ、地震発生じしんはつせいから数日は交通や電気、ガス、水道などがまひしました。また、

余震よしんがつづく中、死者やけが人も日を追ってふえていきました。

さちかわ

幸川さんは、病院に運ばれましたが幸い命にかかわるけがではありません

でした。けれども、しばらく入院することになりました。右足がおれていて、数日間は起き上がることもできませんでした。入院後に動物園の職員しよくいんかられんらくがあり、ピートが地震じしんでひどいけがをおったあと、そのまま意識いしきがない状態じょうたいがつづいているということを知りました。また、地震発生時じしんはつせいじに幸川さちかわさんにおおいかぶさった重い鉄のとびらを取りはらったのは職員たちではなく、ピートだったという事もこの時はじめて知りました。これを聞いて幸川さちかわさんは悲しみで息がつまりそうになりました。そしてピートが早く元の元気なすがたにもどるように必死ひっしの思いでいのりました。幸川さんのベッドからはちょうど北の空が見えるのですが、毎ばん北の星に向かって数え切れないほどねがいをかけました。

いっぽう池田平動物園いけだだいらでは、幸いにもピート以外いがいの動物には大きなひがいは出ませんでした。これには動物園のおりのつくりが幸いしました。動物園

のおりは、もうじゆう猛獣がくらすことを考えてがんじょうにつくられていました。ピー
トがくらししていたクマ舎しゃは、古くなつたコンクリートのかべの一部がくずれ
ておそろしいことが起きてしまいましたが、お客さんとのへだてにあるかべ
やとびらはびくともせず、元あつた形のままでした。それに、動物は人間よ
りもびんかんに地球の震動しんどうを感じ取る力があるのでしょうか。もしかしたら
自然しぜんに自分の身を守る行動ができたのかもしれない。ひさい後も元気に動
く動物たちを見て、むしろ人間の方がはげまされました。その後、ひさい
かくち各地で復興作業ふっくこうさぎぎょうが急速に進められました。

第六章

遠い空の
かなたに

季節きせつはすでに、さくらの花がほころび始めるころになっていました。この季節きせつはおおぐま座ざとこぐま座ざが一番よく見える季節きせつです。星たちは地上で起きた大地震おおじしんとは無関係むかんけいだというように、あいかわらず夜空でとてもきれいにかがやいていました。幸川さちかわさんの入院生活やくも約一ヶ月がすぎ、けがの方は順調じゆんちようによくなつていきました。

明日たいいんに退院をむかえるというばんのことでした。この夜も幸川さちかわさんは北の空の星に向かつてピートがよくなることをいのつていました。するととつぜん、北斗七星ほくとしちせいと北極星ほっきよくせいの間に、何かがピカツと光りました。そして、その光がきれいな線をえがいて地上に向かつて落ちてきたかと思うと、すぐに消えてなくなりました。流れ星でした。いっしゅんのできごとでしたが、幸川さちかわさんはとつさに流れ星に向かつて「ピートがどうか元気になりますように。」とねがいをかけました。

次の日、幸川^{さちかわ}さんは病院をあとにしてまっ先に動物園へと向かいました。
大地震^{おおじしん}は静岡市^{しずおかし}に大きなつめあとをのこしていききました。道路があちこちで
ひびわれたり、もり上がっていて、道ばたのところどころには、たおれた建
物のがれきやこわれた家具などが積み上げられていました。地震^{じしん}発生後一ヶ
月もたつというのに、まだ街^{まち}が完全^{かんぜん}に生き返っていないことをうかがわせま
した。はじめてひさいした街^{まち}の様子をまの当たりにした幸川^{さちかわ}さんは、あらた
めて地震^{じしん}のおそろしさを感じました。市の中心部にある病院から動物園まで
はタクシーで行きましたが、ふつうだったら三十分ぐらいで行けるところ、
地震^{じしん}のせいで道路じようきようが悪く、到着^{とつちやく}まで一時間半もかかってしま
いました。

動物園は地震^{じしん}でひびわれた地面^{じめん}などを整備^{せいび}するために、閉園^{へいえんちゆう}中でしたが、園
内に植えられたさくらは満開^{まんかい}をむかえていて、見事な花をさかせていました。

まるで、早くおおぜいの人に見て来てほしいと言っているかのように見え
ました。^{さちかわ}幸川さんは退院後^{たいいんご}も松葉づえを使わなくては歩けませんでしたが、そ
れでもタクシーからおりると、できるかぎりの早足でクマ舎^{しゃ}にかけつけまし
た。ピートは第二寢部屋^{ねべや}で横たわっていました。もう何日も意識^{いしき}がないまま、
同じかっこうで横たわっていました。^{さちかわ}幸川さんがいない間は動物園の職員^{しよくいん}が
かわるがわるでピートの看病^{かんびよう}にあたっていました。

^{さちかわ}幸川さんはピートがよくなることをずっとしんじてきましたが、横たわっ
たまま動かないでいるピートを見ると、最悪^{さいあく}のことも考えなくてはならない
という思いがしました。^{さちかわ}幸川さんはピートのそばによつて、自分を助けるた
めにこんな目にあつてしまったことをピートにあやまろうとしましたが、な
みだが出てきて言葉にすることができませんでした。クリーム色のフサフサ
の毛なみをやさしくさすりながら、心の中で何度も何度もあやまりました。

さすりながら、ピートの寝顔ねがおを見ていた時でした。ほんのいつしゅんのこ
とでした。たしかにその時ピートのまぶたがかすかに動いたのです。さい
しよ幸川さちかわさんは自分の見まちがいかと思いました。それか自分は夢ゆめを見てい
るのだと思いました。でも、それは見まちがいで夢ゆめでもなかったのです。ピー
トのまぶたが本当に少しづつ上の方に向かって開いていったのです。

その時、ピートは夢ゆめを見ていました。せまくて暗い箱の中に入っていました。
暗くて何も見えないので、不安ふあんになっておかあさんやおにいさんやロシアの
飼育員しいくいんさん、そして幸川さちかわさんを一生懸命いっしょうけんめいさがしていました。そしてしばらく
して、暗くてせまい箱の下の方から一本の光がさしこんだかと思うと、その
光がだんだん上の方に向かって大きくなっていきました。この夢ゆめは、ピート
がはじめて池田平動物園いけだいらに着いた時の光景こうけいにそっくりでした。



夢ゆめからさめかけた時には、ピートのまぶたはすでに半分以上開いていました。ピートは夢ゆめのつづきでまだみんなをさがしていました。すると目の前に、鼻水をすすりながらなみだ目でピートのことをじっと見つめている人がいるのが見えました。なみだと鼻水で顔をグチャグチャにした幸川さちかわさんでした。ピートはようやく長いねむりからさめたのでした。ピートは何か言いたそうに少し口を開けました。その表情ひょうじょうがかすかにえがおのように見えました。この時幸川さちかわさんは、今までこらえてきたものをいっぺんにはき出すかのように、はじめて大きな声をあげて泣なきました。「おい、お前、よかったなあ。本当によかったなあ。」と鼻水をすすりながら泣ないて言うので、半分うなり声のように聞こえました。

池田平動物園いけだたいらはこの地震じしんをきっかけに、今までよりもつとがなじょうでくらしやすい動物園を再建さいけんする計画を立てました。これまでの運動場やおりの

夢ゆめからさめかけた時には、ピートのまぶたはすでに半分以上開いていました。ピートは夢ゆめのつづきでまだみんなをさがしていました。すると目の前に、鼻水をすすりながらなみだ目でピートのことをじっと見つめている人がいるのが見えました。なみだと鼻水で顔をグチャグチャにした幸川さちかわさんでした。ピートはようやく長いねむりからさめたのでした。ピートは何か言いたそうに少し口を開けました。その表情ひょうじょうがかすかにえがおのように見えました。この時幸川さちかわさんは、今までこらえてきたものをいっぺんにはき出すかのように、はじめて大きな声をあげて泣なきました。「おい、お前、よかったなあ。本当によかったなあ。」と鼻水をすすりながら泣ないて言うので、半分うなり声のように聞こえました。

池田平動物園いけだたいらはこの地震じしんをきっかけに、今までよりもつとがなじょうでくらしやすい動物園を再建さいけんする計画を立てました。これまでの運動場やおりの

かんきょうを見直し、できるだけ動物たちのもともののかんきょうに近づくように、みんなでいろいろな考えを出し合いました。動物たちにとってより幸せなくらしができるような動物園作りを目ざし、関係者がいちがんとなつて再建に取り組みました。そして今までのように、数がへってきている動物を守ったり、動物たちのおよめさんやおむこさんをむかえたりするために、園長を始め動物園の職員が世界の動物園と熱心に話し合いをつづけました。その努力が実つて、いろいろな国からたくさんの種類の動物が新しいなかまとして池田平動物園にやって来るようになりました。

幸川さんは退院後しばらくして、池田平動物園の仕事にもどることができました。今の自分があることをピートや他の職員に感謝しました。そして前よりもっと一日一日を大切に生きるようになりました。どんなに小さなことにでも感謝や思いやりの気持ちを持ち、またどんな困難なことにでも立ち向

かう勇氣ゆうきを持つことがとても大切だということを、あらためて感じるようになりしました。

ピートもみんなに見守られながら、見る見るうちに元気を取りもどしました。すぐにふつうに動けるようになり、食欲しょくよくも前のようにもどってきました。そして、半月もすると得意とくいだったとびこみもできるようになって、一度は倉庫そうこのおくにかたづけられたピートのおもちやがまた運動場に出されました。もちろんその中には大好きな三角コーンもありました。寝る前ねに三角コーンを寝部屋ねべやに運んでだいてねむる習慣しゅうかんは前とかわっていません。言うまでもありませんが、幸川さちかわさんを追いかけて回す習慣しゅうかんも前と全く同じです。

今でも幸川さちかわさんは晴れた日の仕事帰り、遠い空のかなたをながめてはおおぐま座ざとおおぐま座ざをさがします。北斗七星ほくとしちせいのあるおおぐま座ざと、おおぐま座ざ

のしっぽをいつもながめている、ほっきょくせい北極星のあるこぐま座ざです。そして二つの星座せいざを見つけると、ピートとピートのおかあさんを思い出し、「この星がいつまでのかがやいて地球を見おろしてくれるように。」といのるのです。

完



おわりに

二〇〇八年十月のある日、静岡県静岡市の実家で暮らす兄から短いメールが送られてきました。一言「ここを見て。」と書かれていて、URLが一つ貼り付けられていました。早速開いてみると、檻のような部屋に白いクマが一匹寝ている写真でした。しばらく見ているとそのクマが時々動くことがわかりました。これが、初めて見た静岡市立日本平動物園がインターネット配信しているホッキョクグマのライブ映像でした。映っているのは二〇〇八年の夏にロシアから来たホッキョクグマの子供のロツシーでした。そのしぐさがあまりにも可愛いこと、ロツシーが飼育員さんに良く甘えていること（明らかに感情表現ができること）、そして動物の様子がつぶさに観察できるシステムの素晴らしさ等にすっかり感激してしまいました。

それからというもの、自宅にいる時はほとんどライブ映像をつけっぱなしにして、ロツシーの様子を観察するようになりました。毎日毎日、ライブ映像を見ていると、「今、ロツシーは何を考えているのかな?」「眠いのかな?」「さびしいのかな?」といろいろな想像をするようになり、ロツシーの気持ちになって自然に独り言を言ったりするようになりました。それ以降連休を利用して何度か日本平動物園に出かけ、本物のロツシーを見ることができましたが、普段はもっぱらライブ映像を見ていました。毎日のようにライブ映像を見ていたら、段々ロツシーの物語を書いてみたくなってきました。それがこの物語を書くことになったきっかけです。

二〇〇九年の春、社団法人 日本動物保護管理協会様（平成二十二年四月一日に 社団法人 日本獣医師会へ吸収合併）主催の「第二十一回日本動物児童文学賞」にこの物語を応募したところ、奨励賞を受賞する

ことができました。今まで賞には縁のなかった自分にとって、信じられないような出来事でした。

この作品はフィクションですので、登場する人物や動物の名前、または地名などは架空のものを設定しましたが、実際は実在する静岡市立日本平動物園のロッシーと飼育員さんをモデルにして書きました。内容についての主な情報源は、日本平動物園が配信するインターネットのライブ映像と、数回だけ見た本物のロッシーですので、本文は観察して感じたことに自分の想像が加わって書かれている部分が多数あります。

動物にも豊かな感情があること、それを体全身で表現できること、またそれを深く理解できる人間がいること、動物と人間との心のふれあいなどを、今まであまり動物園には関心のなかった方など含め、少しでも多くの方に興味を持って読んでいただければこんなに嬉しいことはありません。

物語の執筆にあたり、ロッシーと飼育員さんをモデルにした物語を創作することをご許諾いただきました、静岡市立日本平動物園様に厚く御礼申し上げます。

挿絵を描くにあたっては多大なるご協力をいただきました「うに」様（ハンドルネーム）並びに、「しろくま園」様（サイト名）に心より感謝の意を表します。

「うに」様は動物の写真を多数撮影してご自身のブログに掲載されておられます。「動物園始めました。」というタイトルの写真中心のブログで、実に素晴らしい作品の数々が満載されています。日本平動物園のロッシーに関しても、百四十回近く（二〇一〇年十月現在）にわたり、多数の魅力的な作品が掲載されています。URL: <http://unizoo.exblog.jp/>（右側のメニューに「ロッシー」というタグがありますが、そこをクリックするとロッシーの写真を見ることができます。）

また、「しろくま園」様のサイトは日本全国を網羅した（一部海外も）のホッキョクグマの情報を、素敵なお写真と共に詳しくご紹介されておられ、大変わかりやすくデータベース化されておられます。ホッキョクグマがお好きな方には必見のサイトです。

URL: <http://shirokumaen.com/index.html>

この物語の挿絵を描くあたり、十九枚のうち十八枚は「うに」様、二十六ページの絵に関しましては「しろくま園」様の撮影されたロツシーの写真を元にイラストを描くことをご許諾いただきました。

挿絵に使用した画材ですが、原画はB4サイズの中目、厚口の画用紙に描いています。すべて色鉛筆で描いております。赤と青と黄色の三本だけ使用して、重ね塗りをして可能な限りの色を出したつもりです。

また、この作品の電子書籍出版の実現におきましては、合同会社シーサイドソフト様のお力を借りずしては語れません。合同会社シーサイド

ソフト様は、ソフトウェアの開発・販売をなさっている会社です。

URL: <http://www.seasidesoft.net/index.html>

本電子書籍はシーサイドソフト様が無料で配布しておられる電子書籍出版ソフト『メディアブックパブリッシャー』を利用して作成しました。おかげ様で素人の私でもこんなにクオリティの高い電子書籍を作成することができました。操作においては、わからないことがあるたびに何度もシーサイドソフト様に問い合わせをさせていただきましたが、その都度、大変親切丁寧なご対応をして下さいました。シーサイドソフト様の高い技術力と丁寧なご対応に深く敬意と感謝の意を表します。

芦沢 美樹

二〇一〇年 十月

「参考URL」

参考：財団法人世界自然保護基金ジャパン (WWF Japan)

<<http://www.wwf.or.jp/>>

「WWFの活動―ホッキョクグマの保護活動」

<<http://www.wwf.or.jp/activities/wildlife/cat1014/cat1050/>>
(2010/10/20 アクセス)

参考：宇宙航空研究開発機構 (JAXA) <<http://www.jaxa.jp/>>

「宇宙情報センター・天体観測・いろいろな星座」

<<http://spaceinfo.jaxa.jp/ja/constellations.html>>
(2010/10/20 アクセス)

「著者略歴」

一九六四年

静岡県静岡市に生まれる

一九八六年

日本大学経済学部卒業

一九八六年

アパレルメーカーに入社

二〇〇二年

臨床検査会社に入社

二〇〇九年七月

「第三十一回 日本動物児童文学賞」奨励賞受賞

書名…『ホツキヨクグマと三角コーン』

著者名…芦沢 美樹／作・絵

製作日…二〇一〇年十月二十日

発行者…芦沢 美樹

製作者…芦沢 美樹

email: info@sankakucone.com

Copyright(C) 2010 Miki Ashizawa All rights reserved



ロシアで生まれたホッキョクグマのピートは生後7ヶ月で遠い異国の地、日本に
もらわれていくことになりました。そこで新しくピートを世話することになった
飼育員の幸川さんと出会います。本当の子供のようにピートの世話をする幸川さん、
そんな幸川さんの真心を理解しているかのように幸川さんを慕うピート。充実した
毎日が足早に過ぎていきましたが、ある日突然、思いもよらない惨事が起きます。
動物園での生活の様子や、突然訪れた悲劇を通じ、動物と人間との繊細な心の交流
を伝えます。